

平成 31 年度（2019 年度）

京都市立芸術大学 音楽学部

入 学 試 験 問 題

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

目 次

第一次試験

作曲専攻	1
指揮専攻	7
ピアノ専攻	9
弦楽専攻	10
管・打楽専攻	13
声楽専攻	16
音楽学専攻	17

第二次試験

音楽通論	22
聴音書取（旋律聴音）	30
聴音書取（和声聴音）	31
新曲視唱	32
コールユーブンゲン視唱（声楽専攻のみ）	33
ピアノ新曲視奏（ピアノ専攻のみ）	34
副科ピアノ演奏（ピアノ専攻以外）	36

作曲専攻

(第1日) 和声法：A ソプラノ課題：与えられたソプラノに和声をつけ、4声体とすること。

B バス課題：与えられたバスに和声をつけ、4声体とすること。

両課題とも記譜は次の a 又は b のいずれかを選択すること。

a ソプラノ、アルト、テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。

b ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

実施例 (a,b による記譜) は別記のとおり。試験時間各 2 時間 30 分

作品提出：自作品を 1 曲以上、試験当日に提出すること。(コピー譜を提出のこと。提出された作品は返却しない。)

(第2日) 二声対位法：与えられた全音符の定旋律に、対旋律をつくる。試験時間 3 時間

対旋律は、2 分音符、4 分音符、8 分音符と移勢 (シンコペーション) を含む、いわゆる自由 (華麗) 対旋律によるものとする。

解答は、次の 1～6 の 6 通りが必要である。

1：定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。

2：定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。

3：定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。

4：定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。

5：定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。

6：定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。

なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜移調してもよい。

記譜は a 又は b のいずれかを選択すること。

a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。

b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

実施例 (a による記譜) は別記のとおり。

(第3日) 作曲：与えられた素材により器楽曲を作曲すること。試験時間 4 時間 30 分

(第4日) 面接：各日の試験内容、及び提出作品について等の試問。

◎作曲専攻 (第1日) 和声法の実施例

*課題 {過去の出題 (ソプラノ課題) より冒頭 2 小節}



*記譜 b による実施例

Andante (♩=72ca.)

mp mf

mp

* 記譜 a による実施例

Andante (♩=72 ca.)

A musical score for a piece titled "Andante" with a tempo of approximately 72 beats per minute. The score is in 4/4 time and features a key signature of three sharps (F#, C#, G#). It consists of four staves. The top staff has a melodic line with dynamics *mp* and *mf*. The bottom three staves provide harmonic support, with the lowest staff marked *mp*. A wavy line to the right of the score indicates that it continues.

◎作曲専攻（第2日）二声対位法の実施例

* 記譜 a による実施例

定旋律

A musical score for a two-voice counterpoint exercise. It begins with a "定旋律" (Fixed Melody) in the bass clef, consisting of a sequence of whole notes: C2, D2, E2, F2, G2, A2, B2, C3. This is followed by six numbered systems (1-6), each showing two voices in 3/4 time. The upper voice is in the treble clef and the lower voice is in the bass clef. The key signature is three sharps (F#, C#, G#). Each system shows a different contrapuntal setting of the fixed melody.

平成31年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第一日：和声法（ソプラノ課題）

- 次のソプラノの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。
記譜は、a. または b. のいずれかを選択する。
a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。
b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

Malinconico (♩ = 66)

The musical score consists of three staves of music in 3/4 time, with a tempo of 66 beats per minute. The key signature has one sharp (F#). The melody is written on a soprano staff. The first staff (measures 1-4) starts with a mezzo-piano (*mp*) dynamic and includes a fermata over the first measure. The second staff (measures 5-8) features dynamics of piano (*p*), mezzo-forte (*mf*), and mezzo-piano (*mp*). The third staff (measures 9-12) includes dynamics of forte (*f*), mezzo-piano (*mp*), and piano (*p*). The score uses various phrasing slurs and accents to guide the performer.

(試験時間 2時間 30分)

平成31年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第一日：和声法（バス課題）

- 次のバスの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。
- 記譜は、a. またはb. のいずれかを選択する。
- a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。
- b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

Allegramente ($\text{♩} = 66$)

6

10

(試験時間 2時間30分)

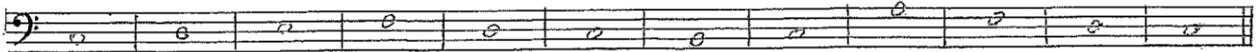
平成31年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第二日：対位法

- 次の全音符の定旋律に、対旋律を1つ作り、二声体としなさい。
対旋律は、二分音符、四分音符、八分音符と移勢（シンコペーション）を含む、いわゆる自由（華麗）対旋律によるものとする。
解答は、次の1－6の6通りが必要である。
- 1：定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。
 - 2：定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。
 - 3：定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。
 - 4：定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。
 - 5：定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。
 - 6：定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。
- なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜に移調してもよい。
記譜は、a. または b. のいずれかを選択すること。
a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。
b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

(試験時間 3時間)



平成31年度
京都市立芸術大学音楽学部入学試験
作曲専攻・第三日：作曲

- ◆ 次のどちらかの素材を選んで、二人以上の奏者のための器楽曲を作曲しなさい。



調性、拍子、速度、リズム、音域は自由とする。
編成については、以下より二つ以上を選択するものとする。
二つ同じ楽器を使ってもよい。

- ・ フルート
- ・ クラリネット
- ・ ホルン
- ・ ヴァイオリン
- ・ ヴィオラ
- ・ チェロ
- ・ ピアノ

移調楽器に関しては、in Cの実音表記で書いても構わない。
その際は、楽譜の冒頭にその旨を記載すること。

ピアノに関しては、連弾も可とする。

(試験時間 4時間30分)

第一次試験

指揮専攻

- (第1日)
- 1 下記の楽曲の指揮をすること。演奏箇所は、当日指定する。(演奏は二台ピアノによる)
(ア) L. v. Beethoven：交響曲 第1番 ハ長調 作品21より第1楽章, 第4楽章
(イ) L. v. Beethoven：交響曲 第2番 ニ長調 作品36より第1楽章, 第2楽章
(ウ) L. v. Beethoven：交響曲 第4番 変ロ長調 作品60より第1楽章, 第2楽章
(エ) L. v. Beethoven：交響曲 第7番 イ長調 作品92より第1楽章, 第2楽章
上記, 出版社は自由とする。
 - 2 下記の楽曲による総譜視奏(スコアリーディング)
(ア) L. v. Beethoven：交響曲 第7番 イ長調 作品92より第2楽章
(イ) 初見視奏(当日提示する管弦楽曲)
 - 3 既に習得している楽器(ピアノ, 弦楽器, 管打楽器, ハープのうちいずれか1つ)若しくは声楽を演奏すること。その場合, 楽器は各自持参すること。ただし, コントラバス, ハープについては, 楽器を持参できない場合は, 本学で用意するので, 楽器を持参するか否かを願書に記入すること。マリimbaについては, 本学で用意する楽器を使用すること。なお, 声楽を除きすべて無伴奏とし, 演奏曲目を願書に明記すること。伴奏者は本学で用意する。ピアノで受験する場合も, 第二次試験の副科ピアノ演奏を受験しなければならない。
※声楽選択者の伴奏用楽譜について
声楽を選択する場合, 伴奏用楽譜を出願の際1曲につき2部ずつ提出すること。
 - ・1ページの大きさはA4判とし, 各ページが全開するよう横一連に綴じること。
 - ・表紙には曲名, 調, 氏名を明記すること。(表紙の右上部分には何も書かないこと。)
 - ・角型2号の封筒に入学願書等の提出書類を同封し, **簡易書留・速達**で郵送すること。封筒には「入学願書在中」と明記すること。(入学願書等提出用封筒は使用しなくてもよい。)
 - 4 和声法：与えられたソプラノとバスの旋律に和声をつけ, 4声体とすること。
(記譜はト音記号とヘ音記号の大譜表による。) 試験時間3時間
- (第2日) 面接を行う。

平成31年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

指揮専攻：和声法

- 次のバス、およびソプラノの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。
記譜は、ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

(試験時間 3時間)

Choral (♩ = 96)



7



Moderato (♩ = 72)



7



13



第一次試験

ピアノ専攻

下記の楽曲を演奏すること。

(第1日) 1 ロマン派以降の作品から、練習曲以外の任意に選んだ作品。

(第2日) 2 F. Chopin：練習曲作品10及び作品25から任意の2曲を選択し、第1日目に、本人による抽選で、演奏する1曲を決定する。

3 J. Haydn 又は M. Clementi 又は W. A. Mozart 又は L. v. Beethoven の、任意のソナター一曲全楽章を選択し、第1日目に本人による抽選で、演奏する(1つの、あるいは複数の)楽章を決定する。

※注意

- (1) いずれも暗譜演奏すること。
- (2) 繰り返しは自由。但し、ソナタ形式の提示部については繰り返ししないこと。
- (3) 演奏するすべての曲の作曲者、作品番号、楽章、調名を願書に明記すること。
- (4) 1については7分以上12分程度までとする。
- (5) 1については、変奏曲の抜粋は認めない。
- (6) 2について、以下の曲は除く。
作品10から3, 6, 9 作品25から1, 2, 7
- (7) 2について、作品番号にかかわらず2曲を選択することも可。
(例：10-1 10-2 あるいは25-4 25-5 あるいは10-1 25-4)
- (8) 時間の都合上カットすることがある。

弦楽専攻

下記の課題を演奏すること。

- ※注意 (1) 選択した曲目及び調名を願書に明記すること。
 (2) 全ての課題は伴奏なしで暗譜演奏すること。(繰り返し及びダ・カーポはしない。)
 (3) コントラバスについてのみ、楽器を持参できない場合は本学で用意するので、楽器を持参するか否かを願書に記入すること。
 (4) 時間の都合上カットすることがある。

*ヴァイオリン

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、その第1楽章と第2楽章(ただしLaloのスペイン交響曲においては第1楽章と第4楽章)を演奏すること。

M. Bruch: 協奏曲 第1番 ト短調 作品26

A. Dvořák: 協奏曲 イ短調 作品53

(Adagio ma non troppo から Finale の前までを第2楽章とする。)

E. Lalo: スペイン交響曲 ニ短調 作品21

F. Mendelssohn: 協奏曲 ホ短調 作品64

N. Paganini: 協奏曲 第1番 ニ長調 作品6

(オリジナル版により演奏すること。カデンツァはなし。)

C. Saint-Saëns: 協奏曲 第3番 ロ短調 作品61

J. Sibelius: 協奏曲 ニ短調 作品47

P. Tchaikovsky: 協奏曲 ニ長調 作品35

(第1楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Vieuxtemps: 協奏曲 第4番 ニ短調 作品31

H. Vieuxtemps: 協奏曲 第5番 イ短調 作品37

(カデンツァはなし。Adagio から Allegro con fuoco の前までを第2楽章とする。)

H. Wieniawsky: 協奏曲 第1番 嬰へ短調 作品14

(第1楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Wieniawsky: 協奏曲 第2番 ニ短調 作品22

(第2日) 1 C. Flesch: Scale System より No.5, 6, 7, 8, 9, 10 ただし No.6 ~ No.9 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6, 7, 8, 9, 10 は4分音符単位(16分音符4個分)で、スラーをかけることとする。

○速度は No.5 はメトロノームで4分音符 = 80以上, No.6 ~ 10 は8分音符 = 60以上で演奏すること。

2 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

P. Rode: 24Caprices

J. Dont: Etüden und Capricen 作品35

N. Paganini: 24Caprices 作品1(ただし17番冒頭及び24番の繰り返しはすること。)

第一次試験

*ヴィオラ

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

Carl Stamitz:協奏曲 ニ長調 作品1 第1楽章及び第2楽章(版は自由とする。カデンツァを除く。)

J. Christian Bach:協奏曲 ハ短調 第2楽章及び第3楽章 (SALABERT版を使用すること。カデンツァを含む。)

A. Hoffmeister:協奏曲 ニ長調 第1楽章及び第2楽章(IMC版を使用すること。カデンツァを除く。)

C. M. v. Weber: Andante e Hungarian Rondo (IMC版を使用すること。)

M. Reger: Suite 作品131d No.1 第1楽章及び終楽章

G. Enesco: Concert piece

(第2日) 1 C. Flesch: Scale System より No.5, 6, 7, 8

ただし No.6, 7, 8 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6, 7, 8 は8分音符単位(16分音符2個分)で、スラーをかけることとする。

○速度は任意である。

2 B. Campagnoli: 41 Caprices 作品22より任意の1曲を選択し演奏すること。(版は自由とする。)

*チェロ

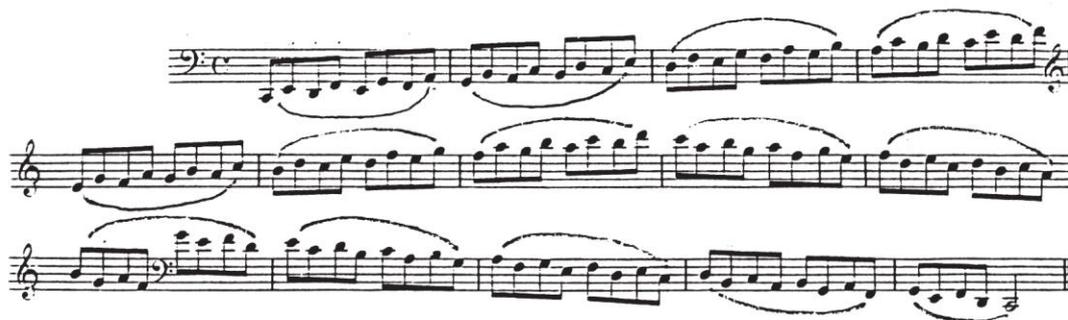
(第1日) 任意の協奏曲より第1楽章又は最終楽章を演奏すること。

(第2日) 1 J. Loeb の Gammes et arpèges (Billaudot 版) を参照のうえ、ホ長調による下記 (a) から (f) までの課題を演奏すること。

(a) 4オクターヴにわたる単音の音階(スラーは1弓8音↓=100以上)

(b) 4オクターヴにわたる単音分散3度の音階(スラーは1弓8音↓=100以上)

ハ長調の例



(c) 4オクターヴにわたるアルペジオ(スラーは1弓6音↓=60以上)

(d) 2オクターヴにわたる重音3度の音階(スラーは自由↓=80以上)

(e) 2オクターヴにわたる重音6度の音階(スラーは自由↓=80以上)

(f) 1オクターヴにわたる重音8度の音階(スラーは自由↓=80以上)

(注) (d) (e) (f) の音階を始める音域は任意とする。また運指は全て自由とする。

2 J. Duport: Etudesより任意の1曲を演奏すること。

※上記全ての課題曲の版は自由とする。

第一次試験

*コントラバス

(第1日) 任意ソナタの第1楽章及び第2楽章又は協奏曲の第1楽章を演奏すること。

(第2日) 1 下記 (a) ~ (d) までの音階及びアルペジオの課題を演奏すること。(速度は自由。スラーの変更可。)

2 A. Vivaldi : Six Sonatas 第1番より第1, 第2楽章 (Largo, Allegro) を演奏すること。

(a)



(b)



(c)



(d)



管・打楽専攻

以下の楽曲を演奏すること。

- ※注意 (1) 下記の第2日の楽曲は、いずれも暗譜演奏すること。(繰り返しはしない。)
 (2) 伴奏者は、いずれも本学において準備するので、同伴しないこと。
 (3) 時間の都合上カットすることがある。

*フルート

- (第1日) E. Köhler : 12 Medium Difficult Exercises 作品 33 第Ⅱ巻の中から当日指定する曲(版の指定なし。)
 (第2日) W. A. Mozart : 協奏曲 第1番 ト長調 K. 313 (K6. 285C) 第1楽章(カデンツァを除く。)

*オーボエ

- (第1日) W. Ferling : 48 Etudes op.31 (Gerard Billaudot 版) より第11番, 第14番, 第19番, 第21番, 第26番, 第33番, 第35番, 第36番, 第40番, 第44番の中から当日指定する曲
 (第2日) J. Haydn : 協奏曲 ハ長調 Hob. Vllg : C1 第1, 第2楽章 (Breitkopf 版)

*クラリネット

- (第1日) C. Rose : 32 Etudes (Alphonse Leduc 版) より第6番, 第9番, 第14番, 第15番, 第18番, 第21番, 第25番, 第26番, 第28番, 第31番の中から当日指定する曲。
 (第2日) 1 R. Eichler : Scales for Clarinet (KUNITACHI COLLEGE OF MUSIC)の各調1・2番をレガート, スタッカートで演奏すること。(当日指定する調を暗譜で演奏すること。)
 2 Carl Maria von Weber : Concertino Es-Dur 作品 26

*ファゴット

- (第1日) J. Weissenborn : Fagott Studien 作品 8 第2巻より第1番から第15番までの中から当日指定する曲(繰り返しなし, 版の指定なし)
 (第2日) G. P. Telemann : Sonata f-moll 第1楽章, 第4楽章(版の指定なし。)

*サクソフォン

- (第1日) W. Ferling : 48 Etudes pour tous les saxophones (Alphonse Leduc 版) より第7番, 第14番, 第17番, 第22番, 第29番, 第30番, 第31番, 第36番, 第43番, 第48番の中から当日指定する曲
 (第2日) A. Grazounov : Concerto en mi bémol (Alphonse Leduc 版) 冒頭から練習番号第16番まで演奏すること。

*ホルン

- (第1日) C. Kopprasch : Sixty Selected Studies (C. Fischer 版, 繰り返しなし) より第7番, 第12番, 第13番, 第15番, 第16番, 第19番, 第23番, 第25番, 第27番, 第28番の中から当日指定する曲
 (第2日) W. A. Mozart : 協奏曲 第4番 変ホ長調 KV. 495 全楽章より当日指定(ただし第3楽章は第99小節目まで, カデンツァなし)

第一次試験

*トランペット

- (第1日) 1 E. F. Goldman : Practical Studies for the Trumpet より第19番 Cadenzas の中から当日指定する曲 (C. Fischer 版)
2 OSKAR BOEHME : 24 MELODIC STUDIES in all tonalities Opus20 より第11番～第22番の中から当日指定する曲
なお、曲を演奏する前に、それぞれの調の音階を最初はテヌートで、リピート後は最後の分散和音までスタッカートで一息で演奏すること。
- (第2日) G. Alary : Morceau de Concours

*トロンボーン

- (第1日) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社) より第10番, 第13番, 第15番, 第17番, 第19番, 第21番, 第22番, 第25番, 第31番, 第40番の中から当日指定する曲 (繰り返しなし)
- (第2日) F. David : Konzertino 変ホ長調 Op.4 第1楽章 (Zimmermann 版を使用すること。練習番号 D まで演奏)

*バス・トロンボーン

- (第1日) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社) より第8番, 第11番, 第13番, 第17番, 第22番の中から当日指定する曲 (繰り返しなし。第13番, 第17番, 第22番はオクターブ下で演奏すること)
Ostrander : Melodious Etudes for Bass Trombone (C. Fischer 版) より
第6番, 第10番, 第16番の中から当日指定する曲
- (第2日) F. David : Konzertino 変口長調第1楽章 (Zimmermann 版を使用すること。練習番号 D まで演奏)

*チューバ

- (第1日) 1 C. Kopprasch : 60 Selected Studies より第5番, 第7番, 第8番, 第9番, 第10番, 第11番, 第12番, 第13番, 第14番, 第15番の中から当日指定する曲
2 M. Bordogni : 43 Bel Canto Studies より第2番～第10番の中から当日指定する曲
- (第2日) W. S. Hartley : Suite for Unaccompanied Tuba (Elkan-Vogel 版) より第1楽章, 第2楽章, 第4楽章

第一次試験

*打楽器

打楽器 (A), 打楽器 (B) のいずれかを選択して演奏すること。(A, B いずれを選択したか, また A については選択した曲名を願書に明記すること。小太鼓については立奏, 座奏いずれも可。両日とも小太鼓およびスタンドは持参すること。)

打楽器 (A)

- (第1日) (ア) A. J. Cirone : Portraits in Rhythm より, 第6番, 第15番の中から当日指定する曲
(イ) Heinrich Knauer : Kleine Trommelschule (Friedrich Hofmeister Musikverlag) より, 第25番, 第28番, 第29番, 第30番の中から当日指定する曲
(ウ) 下記の楽曲の中から一曲を選択し, 本学で用意するマリンバで演奏すること。版の選択は任意。暗譜で演奏すること。
J. S. Bach : ソナタ 第1番 ト短調 BWV1001
J. S. Bach : パルティータ 第1番 ロ短調 BWV1002
J. S. Bach : ソナタ 第2番 イ短調 BWV1003
J. S. Bach : パルティータ 第2番 ニ短調 BWV1004 より Ciaccona
J. S. Bach : ソナタ 第3番 ハ長調 BWV1005
J. S. Bach : パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006

(第2日) 第1日目の(ウ)に同じ

打楽器 (B)

- (第1日) (ア) A. J. Cirone : Portraits in Rhythm より, 第6番, 第15番の中から当日指定する曲
(イ) Heinrich Knauer : Kleine Trommelschule (Friedrich Hofmeister Musikverlag) より, 第25番, 第28番, 第29番, 第30番の中から当日指定する曲
(ウ) Siegfried Fink : Trommel-Suite より Intrada Toccata Mista Marcia (暗譜で演奏すること。)
(エ) J. S. Bach : パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006 より Bourée Gigue (本学で用意するマリンバで演奏すること。版の選択は任意。暗譜で演奏すること。)

(第2日) 第1日目の(ウ)に同じ

第一次試験

声乐専攻

- (第1日) 自由曲：歌曲あるいはアリア1曲（宗教曲も含む）。演奏時間は4分程度とする。ただし、課題曲以外のものを選ぶこと。
- (第2日) 課題曲：下記の15曲の中から各自4曲を選ぶこと。その中から当日2曲を指定する。
- | | | |
|------|-----------------|--------------------------------------|
| (1) | G. M. Bononcini | Deh, più a me non V'ascondete |
| (2) | G. Torelli | Tu lo sai |
| (3) | A. Scarlatti | Caldo sangue |
| (4) | A. Scarlatti | Sento nel core |
| (5) | A. Scarlatti | Già il sole dal Gange |
| (6) | A. Scarlatti | Le violette |
| (7) | C. W. Gluck | O del mio dolce ardor (全音版によるAバージョン) |
| (8) | V. Bellini | Per pietà, bell'i dol mio |
| (9) | V. Bellini | Vaga luna, che inargenti |
| (10) | F. P. Tosti | Rosa |
| (11) | S. Donaudy | O del mio amato ben |
| (12) | F. Schubert | An die Musik |
| (13) | F. Schubert | Lachen und Weinen |
| (14) | 山田耕筰 | 母のこえ |
| (15) | 中田喜直 | 風の子供 |

- ※注意
- (1) 試験の際の演奏は暗譜とする。
 - (2) 曲はすべて原語で演奏することが原則であるが、慣例として認められている訳語は可。
 - (3) 自由曲で、オペラ及びオラトリオ等のアリアは原調によるものとするが、慣例として移調されて歌われるものはその限りではない。
 - (4) 選択した曲名、作曲者名及び調性を願書に明記すること。(提出後の調性の変更は認めない。)
 - (5) 自由曲及び課題曲については、時間の都合上、カットすることがある。
 - (6) 伴奏者は、両日とも本学において準備するので、同伴しないこと。

平成31年度（2019年度）

京都市立芸術大学音楽学部入学試験問題

音楽学 英語

I. 次の文章を読んで設問に答えなさい。*答えは解答用紙に書くこと。

Viewed as a type of composition rather than on its own terms *Rhapsody in Blue* resists classification. At its appearance critics saw it as an example either of jazz or of modern music – or both. It was, after all, premiered by a famous jazz band at a concert entitled “An Experiment in Modern Music.”

In a century characterized by the unpopularity of its most prestigious music, the popular success of the *Rhapsody* has made it suspect. Critics might accept it as a better example of light music, but would not place it next to the works of Stravinsky, Schoenberg or Bartók. Or, worse, they deemed it bad art masquerading as the real thing – kitsch. The persistence of the classification problem points to the hardening of musical (1) in this century, as popular and high forms differentiated themselves from each other. Despite this tendency, “high” composers have pursued projects of **gebrauchsmusik* and other ways of returning to the everyday world or abolishing the supposed boundaries between art and life, and pop musicians from Gershwin to Benny Goodman, Frank Zappa and Paul McCartney have tried to cross over into the classical area. Gershwin’s success in ①both fields, however, remains unique.

Although Gershwin was never considered a jazz performer he has contributed to jazz in two ways: as a composer of jazz standards like “I Got Rhythm,” “Embraceable You,” and “Summertime,” and as a composer of concert works whose idiom derives from jazz. Undoubtedly Gershwin’s huge success in ②both areas overshadowed the parallel accomplishments of such African-American artists as James P. Johnson, Fats Waller, William Grant Still and even Duke Ellington. Jazz writers, both black and white, have accused him of gross appropriation of an idiom that was not rightfully his. They cite the *Rhapsody* as a prime example of commercially successful fake jazz, part of a long history of cultural theft from Stephen Foster’s plantation songs to the Beastie Boys’ white rap. While the facts of racial injustice are indisputable, however, the relation of black and white musicians in the formation of the many musical styles associated with jazz is a complex subject. In music, appropriation is often the sincerest form of (2). ③*Rhapsody in Blue* is an enduring monument to the love affair of Americans – and people around the world – with the African-American idiom that became the most influential language of twentieth-century music.

(Gershwin: *Rhapsody in Blue* by David Schiff, © Cambridge University Press.

Reproduced with permission of Cambridge University Press.)

〔註〕

**gebrauchsmusik*: music composed for use outside the concert field

1. 空所 (1) を埋めるのもっとも適切な語を次から選んで、その記号を書きなさい。

- a. boundaries b. differentiation c. meaning d. categories

2. 下線①の both fields とは何を指しているか。

_____と_____

(解答は英語でも日本語でもよい。)

3. 下線②の both areas とは何を指しているか。

_____と_____

(解答は英語でも日本語でもよい。)

4. 空所 (2) を埋めるのもっとも適切な語を次から選んで、その記号を書きなさい。

- a. friendship b. admiration c. denunciation d. compassion

5. 下線③の文を日本語に訳しなさい。

II. 次の英文をすべて日本語に訳しなさい。

The two meanings of globalization are emblematic of the two contradictory ways in which 'world music' is understood today. In the course of this book I rely on both meanings for my own examination of what world music is today, paradoxes and all. For many, world music represents much that is right in the world, indeed, the very possibility that music and music-making bring people together. The sheer volume of world music – on the radio, CDs, and the Internet, and in university classrooms and books with diverse readerships – has never been greater. When it comes to celebrating globalization, world music is always within earshot.

(World Music: A Very Short Introduction by Philip V. Bohlman. © Philip V. Bohlman 2002. Reproduced with permission of Oxford University Press through PLSclear.)

III. 次の文章を読んで設問に英語で答えなさい。

Catholicism was first introduced to Japan by a Jesuit priest, Francis Xavier, in 1549. It spread nationwide due to the evangelizing activities of the Jesuits who came to Japan after Xavier, and also due to the protection afforded by baptized feudal lords who sought to profit from overseas trade. However, the ban on Christianity, which had begun with an edict issued by Toyotomi Hideyoshi expelling the missionaries, was tightened under the Tokugawa Shogunate, by which all the churches were destroyed and all the missionaries were ordered to leave Japan. In 1637, during the nationwide ban on Christianity, remaining Catholics took up arms against the tyranny of their local lord and were besieged in Hara Castle. The Shogunate was shocked at this Shimabara-Amakusa Rebellion and adopted its national seclusion policy to prohibit the arrival of Portuguese ships that could be used to smuggle missionaries into Japan. After the last missionary within Japan had been martyred in 1644, the remaining Japanese Catholics could only maintain their faith and communities on their own in secret. These believers are referred to as Hidden Christians. Many such communities disintegrated in rapid succession in the latter half of the 17th century due to a series of large-scale crackdowns on remaining Catholics, forcing them to either renounce their religious faith or be martyred.

Hidden Christian communities disappeared in Japan except for the Nagasaki region, where Catholic missionary activities had taken place more extensively than in any other parts of Japan in the initial phase of the introduction of Catholicism. This region provided the foundations for the maintenance of the secret faith even into the 18th century and afterwards. Here, Hidden Christians tried to find ways out to practice their secret faith. Their own objects provided a focus for their worship: for example, a mountain and an island in Kasuga Village and Sacred Places in Hirado, everyday items that were used in their life and work in Sakitsu Village in Amakusa, sacred images in Shitsu Village in Sotome, and Shinto shrines in Ono Village in Sotome.

(World Cultural Heritage, Hidden Christian Sites in the Nagasaki Region. <http://kirishitan.jp/en>)

1. For what purpose did the baptized feudal lords come to believe in Christianity?
2. Why were the communities of Hidden Christians maintained in Nagasaki region?
3. In what ways did the Hidden Christians continue to practice their secret faith?
Give two examples.

平成31年度（2019年度）
京都市立芸術大学音楽学部入学試験問題
音楽学 小論文

音楽にはさまざまなジャンルがあります。それらが本質的に異なるものだとしたら、互いを隔てている要因はなんだろうか。また、ジャンルの垣根を越えて共通する要素があるとしたら、それはなんだろうか。具体的にいくつかのジャンルを挙げながら論じなさい。

音楽学専攻 出題意図

➤ 英語

I. 長文の英語の内容や構造を的確に把握することができるかどうか、また音楽的な内容を正確に理解できるかどうかをみた。

II. 短い英文の意味内容を正しく理解し、その全文を文脈にそって適切な日本語に訳す能力をみた。

III. 英語の文章の内容を十分に把握した上で、英語の設問に英語で的確に答えることのできる理解能力と作文能力をみた。

➤ 小論文

小論文では、さまざまな音楽ジャンルの価値や特質について、ジャンルを分けるときの基準に沿った表層的な違いと、音楽としての共通性という2つの視点から柔軟に考察できるかどうかを問うた。また、音楽に関する自らの知見を適切に用いながら、論理的に文章を構成できるかどうかも確かめた。

平成 31 年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

◆音楽通論◆

受験番号

I. 次の楽譜を見て、設問に答えなさい。(計 50 点)

例

Fl. Ob.

Cl.

ten. sempre stacc.

①

ア B

②

A

pp

D

③

Fl. Ob.

④

⑤

ten.

⑥

ウ

(1) 調の推移を全てドイツ語で答えなさい。(4 点)

(2) で囲まれた①～⑥に該当する和音の種類を、例にしたがって記しなさい。(例：長三和音) (6 点)

(3) A B C のイタリア語を省略しない完全な形で記しなさい。そしてそれぞれの意味を答えなさい。(8 点)

- (4) **D** の記号を英語で記し、その楽語としての意味を答えなさい。(2点)
- (5) ②の和音の基本形を低音部譜表上に、③の和音の第二転回形をソプラノ譜表上に、⑥の和音の第三転回形をアルト譜表上に、臨時記号を用いて、全音符で記しなさい。(3点)
- (6) **A** の音を完全四度高くした音を主音とする長音階を、調号を用いなくて、高音部譜表上に、全音符で記しなさい。(2点)
- (7) (6)で得られた調の平行調の主和音、下屬和音、屬和音の基本形を、調号を用いなくて、テノール譜表上に全音符で記しなさい。(6点)
- (8) **E** の音を減五度低くした音を主音とする旋律的短音階を、調号を用いなくて、ソプラノ譜表上に、上行形下行形ともに、全音符で記しなさい。(4点)
- (9) **C** の音を増6度低くした音を下屬音とする和声的短音階を、調号を用いなくて、テノール譜表上に全音符で記しなさい。(3点)
- (10) 楽譜の二段目から三段目の で示された部分を、短三度下方へ移調し、調号を用いなくて、大譜表上に記しなさい。(12点)

II. 以下の問いに答えなさい。(計10点)

- (1) 次のイタリア語の意味を答えなさい。(6点)
 ① parlando ② con moto ③ Moderato
- (2) 次の言葉を、適切なイタリア語で答えなさい。(4点)
 ① 軽やかに ② 輝かしく

第二次試験

Ⅲ. 次の楽譜を見て、設問に答えなさい。(計 40 点)

The musical score is written for piano in 4/4 time, with a key signature of three flats (B-flat major or D-flat minor). The tempo is marked *Andante* with a metronome marking of ♩=60. The score is divided into sections labeled A through H, with various musical markings and handwritten annotations.

- Section A:** Starts with *pp* (pianissimo) and a tempo marking of *Andante* ♩=60. A handwritten note '例' (example) points to a specific melodic line.
- Section B:** Marked *cantabile e dolce* (cantabile and dolce). A handwritten note 'あ' (a) points to a measure.
- Section C:** Continues the *cantabile e dolce* marking.
- Section D:** Marked *mf* (mezzo-forte). A handwritten note 'い' (i) points to a measure.
- Section E:** Marked *mf* (mezzo-forte). A handwritten note 'え' (e) points to a measure.
- Section F:** Marked *mf* (mezzo-forte). A handwritten note 'お' (o) points to a measure.
- Section G:** Marked *mf* (mezzo-forte). A handwritten note 'き' (ki) points to a measure.
- Section H:** Marked *mf* (mezzo-forte). A handwritten note 'け' (ke) points to a measure.

Other markings include *pp*, *mf*, *meno*, and *m.g.* (mezzo-giochi). The score features various musical notations such as slurs, ties, and dynamic markings.

第二次試験

- (1) この楽譜を全て演奏すると、その所要時間は何分何秒になるか答えなさい。(2点)
- (2) A～Fの意味を日本語で答えなさい。(6点)
- (3) GとHをイタリア語で記しなさい。(2点)
- (4) あ～この音程を、例にしたがって答えなさい。(20点)
(例：長二度)
- (5) あ～おの転回音程を、解答用紙に示された音の上部につくりなさい。(10点)

平成 31 年度
京都市立芸術大学音楽学部入学試験

◆音楽通論◆

受験番号	
------	--

I. (1) _____

(2) ① _____ ② _____ ③ _____

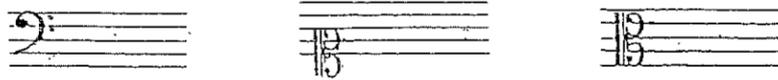
④ _____ ⑤ _____ ⑥ _____

(3) A _____ B _____ C _____

意味 _____

(4) D _____ 意味 _____

(5) ② _____ ③ _____ ⑥ _____



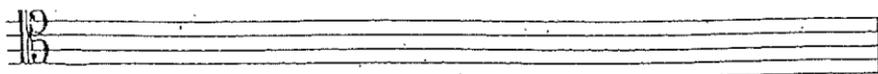
(6) _____

(7) _____

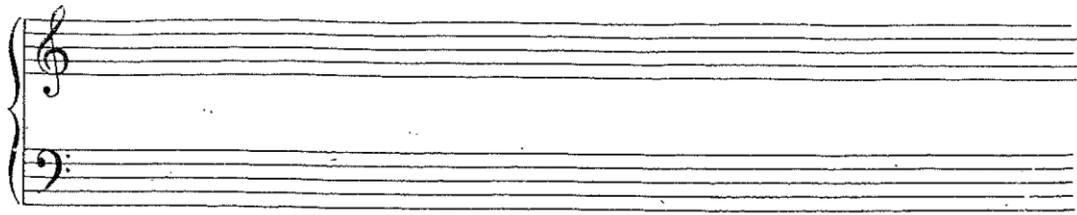
(8)



(9)



(10)



II. (1) ① _____ ② _____ ③ _____

(2) ① _____ ② _____

III. (1) _____ 分 _____ 秒

(2) A _____ B _____ C _____

D _____ E _____ F _____

(3) G _____ H _____

(4) あ _____ い _____ う _____ え _____

お _____ か _____ き _____ く _____

け _____ こ _____

(5) あ い う え お

平成 31 年度
京都市立芸術大学音楽学部入学試験

◆ 音楽通論 ◆

解答例

(試験時間 1 時間)

I. (1) F dur → C dur → g moll → d moll [4 点×1]

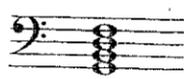
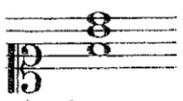
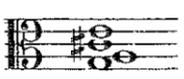
(2) ① 短三和音 ② 属七の和音 ③ 減三和音

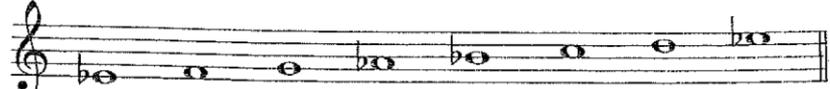
④ 長三和音 ⑤ 増三和音 ⑥ 属七の和音 [1 点×6]

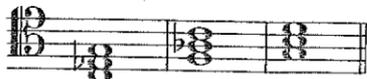
(3) A pianissimo B tenuto C sempre staccato [AB1 点×4]

意味 きわめて弱く 意味 (音を) 保って 意味 常に音を切って [C2 点×2]

(4) D tie 意味 (音と音を) 繋いで, 結んで [1 点×2]

(5) ②  ③  ⑥  [1 点×3]

(6)  [2 点×1]

(7)  [2 点×1]

(8) [2 点×1]



(9)  [3 点×1]

(10)

[12点]

II. (1) ① 話すように ② 動きをもって ③ 中位の速さで [2点×3]

(2) ① leggiero ② brillante [2点×2]

III. (1) 1分12秒 [2点×1]

(2) A 歩く速さで B 歌うように C 甘美に

D だんだん弱く E やや強く F 左手で [1点×6]

(3) G arpeggio H accento [1点×2]

(4) あ 完全五度 い 増四度 う 短六度 え 短七度

お 増一度 か 減五度 き 長三度 く 重増四度

け 増三度 こ 短六度 [2点×10]

(5) あ い う え お

[2点×5]

第二次試験

平成 31 年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

旋律聴音

(主音及び主和音を与える。20 秒間隔で、6 回通奏を行う。6 回目の通奏終了後、1 分間を与える。)

♩ = 70

5

3

8

3

第二次試験

平成 31 年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

和声聴音[作曲, 指揮, ピアノ]

(主和音を与える。20 秒間隔で, 6 回通奏を行う。6 回目の通奏終了後,
1 分間を与える。)

$\text{♩} = 40$

The musical score consists of two systems of piano accompaniment. The first system contains measures 1 through 4, and the second system contains measures 5 through 8. The music is written in a grand staff with a key signature of one flat (B-flat major or D minor) and a common time signature. The tempo is marked as quarter note = 40. The score features various chordal textures and melodic lines in both hands.

平成 31 年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

和声聴音[弦楽, 管・打, 声楽, 音楽学]

(主和音を与える。20 秒間隔で, 6 回通奏を行う。6 回目の通奏終了後,
1 分間を与える。)

$\text{♩} = 40$

The musical score consists of two systems of piano accompaniment. The first system contains measures 1 through 4, and the second system contains measures 5 through 8. The music is written in a grand staff with a key signature of one flat (B-flat major or D minor) and a common time signature. The tempo is marked as quarter note = 40. The score features various chordal textures and melodic lines in both hands.

第二次試験

平成 31 年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

新曲視唱

(予見時間は 30 秒。主和音を与える。)

♩ = 40
mf *legato*

5
f *mp*

第二次試験

平成 31 年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

コールユーブンゲン視唱

(予見時間はなし。主和音を与える。)



平成31年度京都市立芸術大学入学試験
新曲視奏

(予見時間は2分間。)

N.B. The alterations are valid only for the note with them.
注意：臨時記号はその臨時記号が書かれた音のみに有効である。

$\text{♩} = 54 \text{ ca.}$

non Ped. Ped. *p*

4

non Ped. Ped. *p*

7 **Più mosso** ($\text{♩} = 66 \text{ ca.}$)

non Ped. Ped. (changing frequently and slightly, almost 1/4) *p* m.d.

9

m.g. *mf* *p* *mf* m.d. m.g. *mp*

第二次試験

2
11

6 3 f mp f 3

Detailed description: This system covers measures 11 and 12. The right hand features a complex melodic line with a sextuplet of sixteenth notes in measure 11, followed by a triplet of eighth notes. Dynamics range from forte (f) to mezzo-piano (mp). The left hand plays a steady eighth-note accompaniment.

13

mp p 3 m.d. m.g. 3 Ped. mf p

Detailed description: This system covers measures 13 and 14. Measure 13 includes a triplet of eighth notes in the right hand. Measure 14 features a fermata over the right hand and a mezzo-forte (mf) dynamic. The left hand has a triplet of eighth notes and a mezzo-piano (p) dynamic. Pedal markings include 'm.d.', 'm.g.', and 'Ped.'.

15

rit. Tempo I (♩ = 54 ca.) p mp p mf mp (with 1/4 pedal)

Detailed description: This system covers measures 15 and 16. Measure 15 starts with a piano (p) dynamic and a ritardando (rit.) marking. Measure 16 begins with a tempo change to 'Tempo I' (♩ = 54 ca.) and features a mezzo-piano (mp) dynamic. The left hand has a mezzo-forte (mf) dynamic. Pedal markings include 'Ped.' and '(with 1/4 pedal)'.

18

mp p m.g. 3 mp p Ped. (with 1/4 pedal)

Detailed description: This system covers measures 18 and 19. Measure 18 has a mezzo-piano (mp) dynamic. Measure 19 features a piano (p) dynamic and a triplet of eighth notes in the right hand. The left hand has a mezzo-piano (mp) dynamic. Pedal markings include 'Ped.' and '(with 1/4 pedal)'.

各専攻副科ピアノ課題曲

副科ピアノの課題曲については、次のとおりとします。

- 1 音階：次の調性の中から同一調子記号による長調と短調を当日指定する。
速度は♩ = 76 M. M. 以上。
ハ長調 ト長調 ニ長調 イ長調 ヘ長調 変ロ長調 変ホ長調
イ短調 ホ短調 ロ短調 嬰ヘ短調 ニ短調 ト短調 ハ短調
(注) ハノン第 39 番による。長調の音階は繰り返し演奏し、終止形をつけて終わる。短調は、和声的及び旋律的短音階の両方を一度ずつ続けて演奏し、終止形をつけて終わる。
 - 2 (A) J. S. Bach：平均律クラヴィーア曲集 第 1 巻より 前奏曲とフーガ 第 11 番 ヘ長調 BWV856
(B) J. S. Bach：2 声のインヴェンション BWV772～786 より 1 曲又はシンフォニア（3 声のインヴェンション）BWV787～801 より 1 曲を自由選択
ただし、インヴェンション第 10 番ト長調、シンフォニア第 5 番変ホ長調、シンフォニア第 6 番ホ長調を除く。
(C) R. Schumann：ユーゲントアルバム(子供のためのアルバム)作品 68 より第 1 番 メロディー
- (注) ※作曲及び指揮専攻志願者は、上記 1 は必ず、2 は (A) (B) の中から 1 つを選択し、演奏すること。
※弦楽、管・打楽、声楽及び音楽学専攻志願者は、上記 1 は必ず、2 は (A) (B) (C) の中から 1 つを選択し、演奏すること。
※全て暗譜で演奏すること。(繰り返しはしない。)

2019年4月

京都市立芸術大学 事務局 入試担当

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6

Tel 075-334-2238

Fax 075-334-2281

<http://www.kcua.ac.jp>